

# 本を読んで、想像力を磨いて



桂文之助師匠は多くのファンをもつ落語家で、平成28年には「文化庁芸術祭」大衆芸能部門大賞を受賞した。多岐にわたって才能を発揮され、「落語でもきる気象予報士」としての一面も持つ文之助師匠にお話を伺った。  
出身地は神戸市。青春を過ごした兵庫高校については「とにかく個性的な人が多い学校だった」とのこと。この頃すでに落語家の道を志していた文之助さん。ひょんなことから応援団に身を置いていたが、おとなしく目立たない生徒だつたとい

みることの大切さを説いてくれた。

ソトも目から全部入つてくる時代でイメージすることが昔よりずっと少なくなっている。だからこそたくさん本を読んで想像力を育てることがとても大切。落語だってお客様さんのイメージで完成するものですから」「あと、本でも絵でも芝居でもなんでも面白いと思えるのをどんどん見に行ってやってみてほしいと思います。やってみるとまたそこには違う面白さがありますから」と、イメージを膨らませること、やってみることの大切さを説いた。

新開地・喜楽館」がオーブンする。喜楽館はかつて日本有数の歓楽街であった新開地に約40年ぶりに復活する、毎日落語や伝統芸能と接することのできる場だ。文之助師匠は喜楽館について、「敷居も高くなりですから、まずは一度足を運んでみてください。演じる人の息遣いがわかる生の舞台つてやっぱり一番面白い。そこで面白いと思ったらもう一度、という風にリピーターになってくれたらうれしいです」と語つてくれた。



兵庫高校出身の落語家・桂文之助さん

A medium shot of a man with glasses and a grey plaid sweater sitting cross-legged on a tatami mat. He is gesturing with his hands as if speaking. In front of him, the back of another person's head and shoulders are visible, wearing a dark blue jacket. Behind the man is a vertical scroll hanging on a light-colored wall. To the left, a wooden railing and a small decorative object are visible.

# 「愛のポスト」で縁結び



記事  
写真  
黒松  
山本  
渾  
葵

# 最強恋愛スポット氷室神社

てくださり、水室神社では「れんあいべん」と呼ばれている。その名の通り恋愛に関するご利益が絶大だと有名で、全国各地から参拝客が訪れる。恋愛祈願には手順があり、まず参拝をする。次に神様への手紙を書く。この内容はより具体的である方が良いという。その手紙を愛のボストンに入れ、最後にもう一度参拝する。

出会いや恋愛成就だけでなく、夫妻良縁などにもご利益のある「最強恋愛スポット」、水室神社。一度訪れてみてはいかがだろうか。